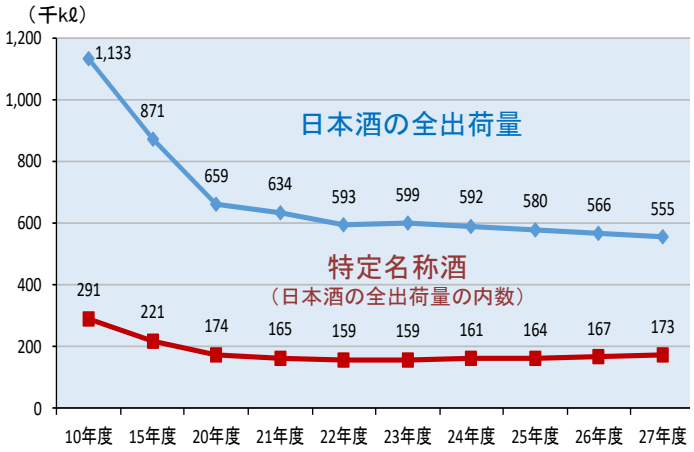
# 今月の特集

## 【酒造好適米の需要量調査結果の状況】

### 1　日本酒をめぐる状況

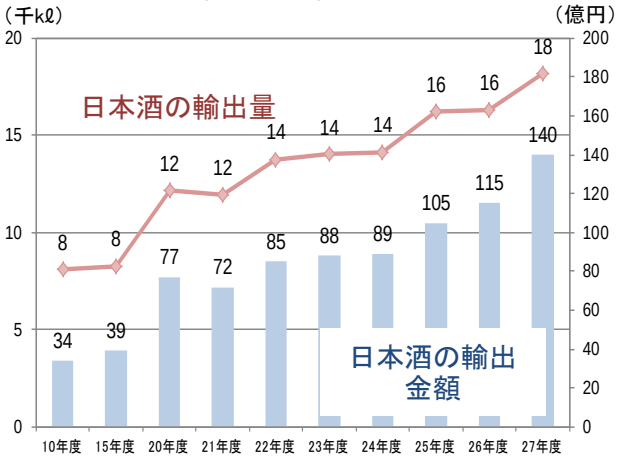
- 日本酒については、消費者志向の変化に伴い、特定名称酒の出荷が堅調に推移しており、加えて、輸出も増加傾向。

【日本酒の国内出荷数量の推移】




注：日本酒造組合中央会調べ。年度は暦年。

【日本酒の輸出量・輸出金額の推移】




資料：「貿易統計」（財務省）。年度は暦年。

- 酒造好適米の需要が高まる中、酒造好適米は栽培が難しいことに加え、連続して作柄が悪かったこと等から、酒造メーカーの希望に応じた生産ができず、供給不足が続いていた。
- 農林水産省では、平成２６年産米から酒造好適米の使用量の増加に対応できるよう、生産数量目標の枠外での生産を可能とする運用見直しを行った結果、概ね酒造メーカーの希望に見合った供給が行われた。
- しかし、平成２６年産主食用米（うるち米）の取引価格が大幅に低下したことから、平成２７年産では、主食用米より高値で取引されている酒造好適米の作付面積が増加し、更に作柄が良かったこと等から、供給過剰となり、酒造好適米の需給は緩和している状況。

【酒造好適米の生産状況】

（単位：千ﾄﾝ）

| | 21年産 | 22年産 | 23年産 | 24年産 | 25年産 | 26年産 | 27年産 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 酒造好適米合計 | 71 | 65 | 65 | 68 | 76 | (4) 90 | (7) 107 |
| うち山田錦 | 21 | 19 | 20 | 21 | 23 | 30 | 39 |
| うち五百万石 | 20 | 19 | 19 | 19 | 21 | 23 | 26 |

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）
注１：27年産は平成28年3月31日現在。
注２：26年産、27年産の（　）内は、枠外生産分で内数である。

【原料米の使用状況】

（単位：千ﾄﾝ）

| | 10年産 | 15年産 | 20年産 | 21年産 | 22年産 | 23年産 | 24年産 | 25年産 | 26年産 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 原料米 | 405 | 315 | 261 | 246 | 232 | 238 | 241 | 243 | 248 |
| 酒造好適米 | 99 | 75 | 77 | 71 | 65 | 65 | 68 | 76 | 90 |
| 主食用米 | 165 | 92 | 60 | 54 | 43 | 50 | 57 | 34 | 27 |
| 加工用米 | 86 | 89 | 74 | 72 | 77 | 71 | 79 | 95 | 105 |
| その他 | 55 | 59 | 50 | 49 | 47 | 52 | 37 | 38 | 26 |

注１：原料米全体の使用量は国税庁公表値。
注２：内訳は日本酒造組合中央会による推計値。

## ２　日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会の開催

- 　日本酒原料米の需要に応じた生産を確保するため、酒造メーカーの需要状況を踏まえた生産を行う必要がある。
- 　このため、農林水産省では酒造好適米の生産サイドと需要サイドが情報交換を行い、相互の連携強化を促進するため、「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を開催。
- 　情報交換会では、日本酒原料米の取引の現状やその課題を議論し、「日本酒原料米の安定取引に向けた取りまとめ」（以下「取りまとめ」という。）を策定。

◇　第1回〔平成28年3月22日(火)開催〕日本酒をとりまく事情
◇　第2回〔平成28年6月20日(月)開催〕日本酒原料米の安定取引に向けた取りまとめ

【安定取引に向けた今後の取組方向】

### 複数年契約の拡大に向けた対応

- 　複数年契約を拡大することは、生産者サイドにおいては、需要の早期把握による安定生産・安定供給や生産者と実需者との結び付き強化等のメリットがあり、需要に応じた生産が図られれば、価格の安定にもつながる一方、需要者サイドにおいては、今後どれだけ酒が売れるか分からないことから、複数年契約を行うことは、難しい面があるものの、複数年契約に取り組むことにより、将来にわたって、酒造好適米の安定調達が可能となる。

- 　各産地毎に、需要者との取引契約のあり方については、これまでの背景や経緯もあることから、各産地及び各酒造メーカーごとの判断により段階的に取り組みを推進してはどうか。

### 作況変動等に対応する仕組みの構築

- 　酒造好適米は、複数年契約等により計画的に作付けを行っても、作況変動等による生産量の増減や需要の急激な増減による過不足を回避することは困難なため、安定供給が図られるよう、生産・需要者双方が連携してランニングストックを確保する体制の構築が必要ではないか。

- 　産地ごとに様々な事情があることから、生産者と需要者が協議しつつ、米穀周年供給・需要拡大支援事業の活用等も含め、どういう対応ができるか検討を進めてはどうか。

### 需要情報の提供体制の構築

- 　需要に応じた日本酒原料米の生産を行うことが重要となることから、生産者が酒造好適米の作付判断や種子の確保を行うために参考となる酒造好適米の需要量見通し等を、酒造メーカーの協力も得て国が情報を収集、整理し、生産者に提示。

- 　なお、国が酒造メーカーに対して行った調査結果は、本情報交換会の下に、日本酒造協同組合連合会原料委員会の委員を中心に構成する「原料部会」を設置し、分析・検討を行った上で、農林水産省ホームページ及び「米に関するマンスリーレポート」等により、産地に情報提供してはどうか。

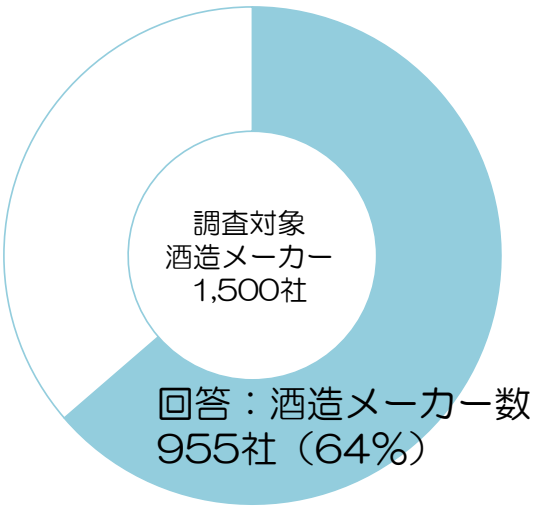
## 3　酒造好適米の需要量調査の実施

- 安定取引に向けた取りまとめにおける取組の一環として、酒造好適米の需要に応じた生産を実現するため、酒造好適米の需要量調査を以下のとおり実施。

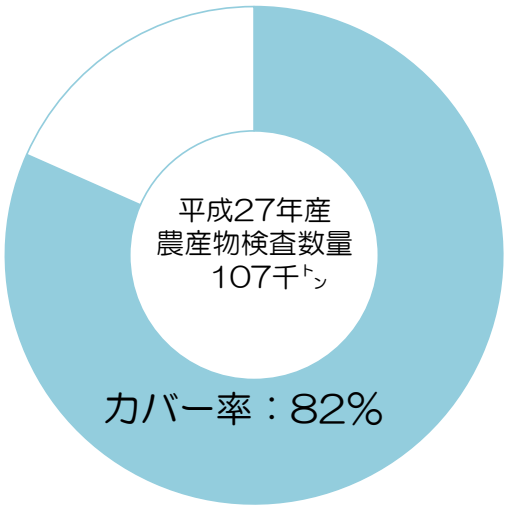
【調査の実施状況】

- 調査内容　：平成27～29年産酒造好適米の産地品種銘柄別需要量（実績見込・見込）
- 調査期間　：平成28年7月～9月
- 調査対象者：全国の酒造メーカー　1,500社
- 回収状況　：回答酒造メーカー数　955社（回収率64%）、数量　87千ﾄﾝ（農産物検査数量に対するカバー率82%）（平成27年産検査数量107千ﾄﾝ）

回答率：酒造メーカー数ベース




回答率：酒造メーカー需要量の農産物検査数量に対するカバー率




（参考）酒造好適米の需要量調査票

### 酒造好適米の需要量調査票

都道府県名：

会社名：

（単位：俵/玄米60kg）

| | 酒造好適米需要量 | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|
| | 27年産<br>購入実績（見込）<br>（玄米ベース） | 28年産<br>購入見込<br>（玄米ベース） | 29年産<br>購入見込<br>（玄米ベース） | |
| 合計 | 俵 | 俵 | 俵 | |

＜内訳＞　（単位：俵/玄米60kg）

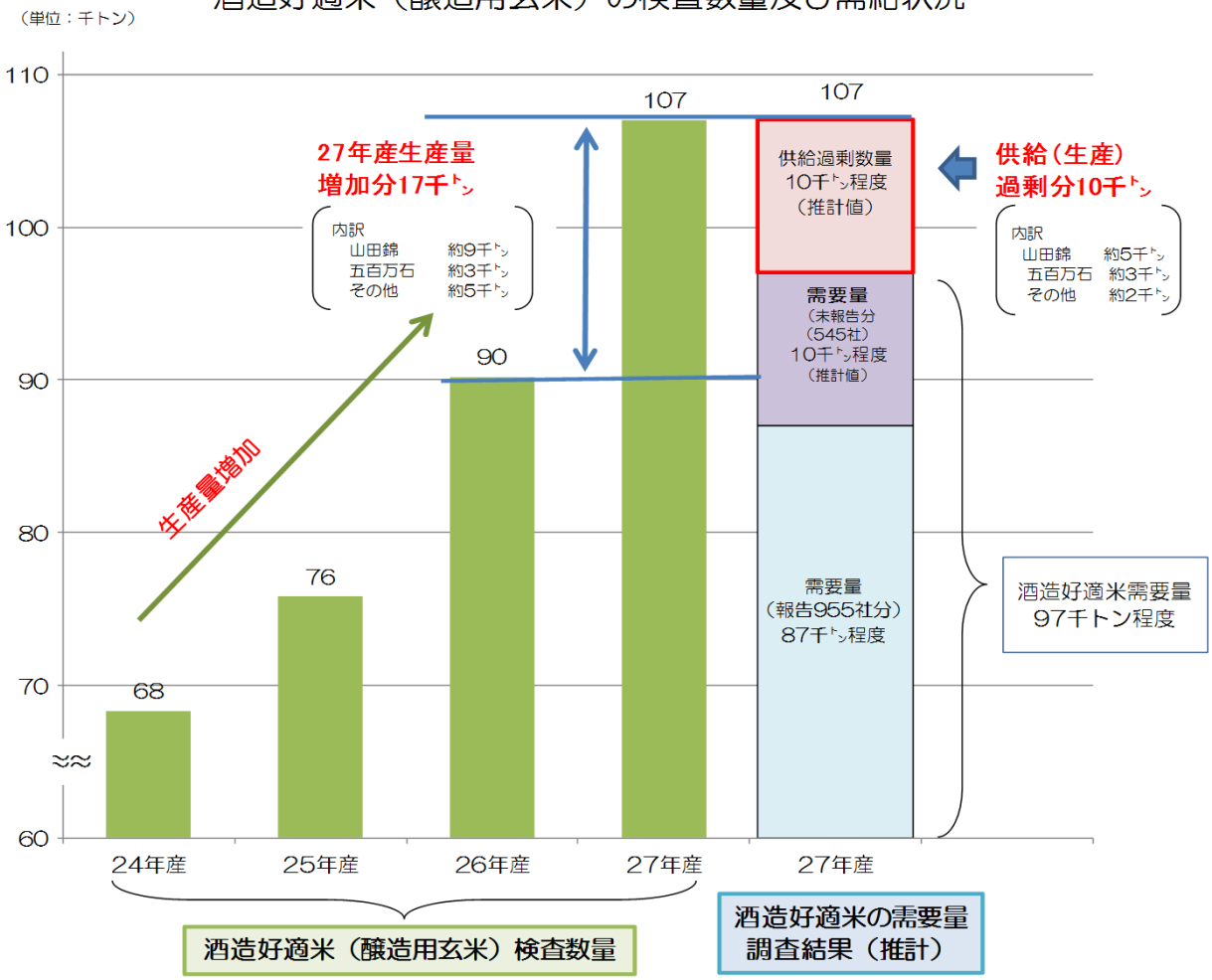
| 産　地 | 銘柄名 | 酒造好適米需要量 | | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 27年産<br>購入実績（見込）<br>（玄米ベース） | 28年産<br>購入見込<br>（玄米ベース） | 29年産<br>購入見込<br>（玄米ベース） | |
| | | 俵 | 俵 | 俵 | |
| | | 俵 | 俵 | 俵 | |
| ≈ | ≈ | ≈ | ≈ | ≈ | ≈ |
| | | 俵 | 俵 | 俵 | |

## 4　酒造好適米の需給状況

【酒造好適米の生産量と需要見通し】

- 近年、酒造好適米の生産量（醸造用玄米検査数量）は、生産拡大に向けた取組や生産数量目標の枠外での生産を可能とする運用見直し等により毎年増加し、平成27年産は107千ﾄﾝ程度。
- 一方、出荷業者からの聞き取りをもとに供給過剰数量を推計すると、生産量のうち約10千トン程度と見込まれることから、平成２７年産需要量は、平成２７年産生産量から供給過剰数量を差し引いた９７千トン程度と見込まれる。
- 酒造好適米の需要量調査の結果、平成29年産の需要量（見込）は、平成27年産需要量（実績見込）とほぼ同程度となっているが、仮に27年産と同程度の作付けを行った場合、平成27年産においては約10千トンの供給過剰が発生していることから、平成29年産のおいても同様に供給過剰が発生するおそれがある。

酒造好適米（醸造用玄米）の検査数量及び需給状況



## 5 酒造好適米の需要量調査結果の分析

**【酒造好適米の需要見通し】**
今回実施した酒造好適米の需要量調査によれば、酒造好適米の需要見通しは、以下のとおりであるが、平成29年産の作付けにあたっては、本調査結果のほか、平成27年産の需給状況や平成28年産の生産量等を十分に踏まえた対応を行う必要がある。

### 27年産酒造好適米の需給状況

平成27年産においては、引き続き生産拡大に取り組み、作柄も良かったことから、酒造好適米の生産量が大幅に増加し、酒造メーカーの中には、一部の産地品集銘柄を当初の購入希望数量以上に購入したため、本調査における平成27年産酒造好適米の需要量（実績見込み）は、87千㌧となっている。

### 28年産酒造好適米の需給状況

現時点において生産量等が把握できないため、見通しは困難であるが、平成27年産において、購入希望数量以上に購入した反動から、平成28年産の購入数量を減らすケースが見られること等から平成28年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成27年産と比較して約2千トン減少する85千㌧が見込まれている。

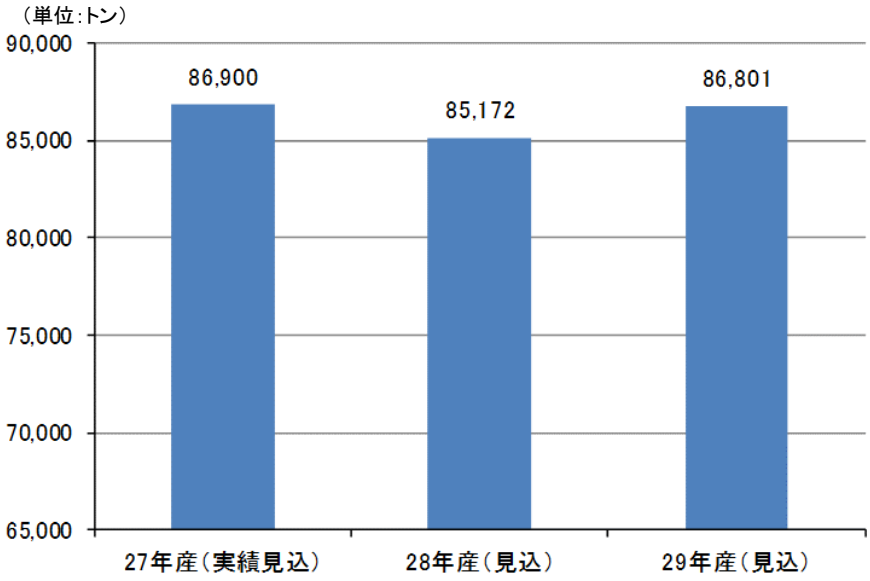
### 29年産酒造好適米の需給状況

29年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成28年産と比較して約2千㌧増加し、87千トンとなり、平成27年産と同水準の値が見込まれている。

**【調査結果における需要量の見通し】**
- 酒造好適米の需要量調査の結果において、酒造好適米の全体需要量の見通しは、以下のとおり。

| | |
|---|---|
| 27年産（実績見込） | 87千㌧ |
| 28年産（見込） | 85千㌧（前年差　▲2千㌧） |
| 29年産（見込） | 87千㌧（前年差　＋2千㌧） |

＜平成27年～29年産酒造好適米の需要量見通し（需要量調査結果）＞



【平成29年産の主な産地品種銘柄の需要状況】

- 主な産地品種銘柄（回答があった193産地品種銘柄）のうち、平成２８年産に比べて平成29年産で需要量の増加が見込まれる銘柄は、９４銘柄。需要量の減少が見込まれる銘柄は、36銘柄。変動が見込まれない銘柄は、63銘柄。
- このうち、最も増加している銘柄は、兵庫県産山田錦876ﾄﾝ。最も減少している銘柄は新潟県産五百万石199ﾄﾝ。それ以外は100ﾄﾝ未満の増減。
- 各産地においては、平成27年産の需給状況や平成28年産の生産量等を踏まえ、きめ細やかな調整が必要。

## 平成29年産において需要増加が見込まれる上位10銘柄

| 順位 | 産地品種銘柄 | | 29年産（見込）① | 29年産と28年産との比較 ①−② | 29年産と28年産との比較 ①/② | 29年産と27年産との比較 ①−③ | 29年産と27年産との比較 ①/③ | 28年産（見込）② | 27年産（実績見込）③ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 兵 庫 | 山田錦 | 24,010 | 876 | 104% | 731 | 103% | 23,134 | 23,279 |
| 2 | 長 野 | 美山錦 | 3,498 | 97 | 103% | -194 | 95% | 3,401 | 3,693 |
| 3 | 北海道 | 吟風 | 1,112 | 96 | 109% | -35 | 97% | 1,016 | 1,147 |
| 4 | 岩 手 | 吟ぎんが | 644 | 61 | 110% | 102 | 119% | 583 | 542 |
| 5 | 山 形 | 出羽燦々 | 1,561 | 60 | 104% | -30 | 98% | 1,502 | 1,591 |
| 6 | 熊 本 | 華錦 | 180 | 47 | 136% | 146 | 527% | 133 | 34 |
| 7 | 山 梨 | 夢山水 | 216 | 44 | 126% | 84 | 164% | 172 | 132 |
| 8 | 宮 城 | 蔵の華 | 870 | 35 | 104% | 35 | 104% | 835 | 835 |
| 9 | 山 口 | 山田錦 | 1,330 | 32 | 102% | 73 | 106% | 1,298 | 1,257 |
| 10 | 山 梨 | ひとごこち | 188 | 30 | 119% | 61 | 149% | 158 | 126 |

## 平成29年産において需要減少が見込まれる上位10銘柄

| 順位 | 産地品種銘柄 | | 29年産（見込）① | 29年産と28年産との比較 ①−② | 29年産と28年産との比較 ①/② | 29年産と27年産との比較 ①−③ | 29年産と27年産との比較 ①/③ | 28年産（見込）② | 27年産（実績見込）③ |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 新 潟 | 五百万石 | 9,493 | -199 | 98% | -1,905 | 83% | 9,692 | 11,398 |
| 2 | 富 山 | 五百万石 | 2,891 | -67 | 98% | -238 | 92% | 2,957 | 3,129 |
| 3 | 青 森 | 華吹雪 | 774 | -39 | 95% | -24 | 97% | 813 | 798 |
| 4 | 北海道 | きたしずく | 136 | -24 | 85% | -39 | 78% | 160 | 176 |
| 5 | 岐 阜 | ひだほまれ | 860 | -15 | 98% | 217 | 134% | 874 | 642 |
| 6 | 静 岡 | 山田錦 | 454 | -11 | 98% | -0 | 100% | 466 | 455 |
| 7 | 石 川 | 五百万石 | 1,137 | -11 | 99% | -38 | 97% | 1,148 | 1,175 |
| 8 | 熊 本 | 神力 | 65 | -10 | 87% | 17 | 134% | 75 | 48 |
| 9 | 山 梨 | 吟のさと | 12 | -9 | 58% | -4 | 73% | 21 | 16 |
| 10 | 和歌山 | 五百万石 | 15 | -8 | 66% | -3 | 82% | 22 | 18 |

今回実施した酒造好適米の需要量調査は、
① 平成27年産酒造好適米が平成28年産に持ち越される可能性が高いこと
② 平成28年産酒造好適米の生産量を現時点では見通せないこと
③ 日本酒の製造計画が変更となる可能性があること
等の前提条件下で実施したことから、平成29年産酒造好適米の需要量（見込）は変動する可能性があるため、本年11月をめどに再度調査を実施し、来年1月までに改めて情報提供を行う。

以上のほか、詳細な情報は、以下ＵＲＬにより「日本酒原料米をとりまく状況及び酒造好適米の需要量調査結果の概要」を参照ください。
ＵＲＬ：http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/kome_torihiki/seisyu01.html